

[東京大学 2010 年前期 理科 1]

3 辺の長さが a と b と c の直方体を、長さが b の 1 辺を回転軸として 90° 回転させるとき、直方体が通過する点全体のつくる立体を V とする。

(1) V の体積を a, b, c を用いて表せ。

(2) $a+b+c=1$ のとき、 V の体積のとりうる値の範囲を求めよ。

(1) V は高さ b の柱で、底面は長方形 $OABC$ を O のまわりに 90° 回転して得られる図の打点部分。

その面積は $\frac{\pi}{4}(a^2+c^2)+\frac{ac}{2} \cdot 2$ となる。

V の体積を W とすると $W = \left\{ \frac{\pi}{4}(a^2+c^2)+ac \right\} b$

$$(2) W = \left\{ \frac{\pi}{4} \{ (a+c)^2 - 2ac \} + ac \right\} b$$

$$= \left\{ \frac{\pi}{4} (a+c)^2 - \left(\frac{\pi}{2} - 1 \right) ac \right\} b \quad \dots \textcircled{1}$$

$a+b+c=1$ より $a+c=1-b$ で、 $0 < b < 1$ $\dots \textcircled{2}$

$$\text{よって } W = \textcircled{1} = \left\{ \frac{\pi}{4} (1-b)^2 - \left(\frac{\pi}{2} - 1 \right) ac \right\} b \quad \dots \textcircled{3}$$

b を固定したとき、 $ac = a(1-b-a)$ の範囲は

$0 < ac \leq \frac{1}{4}(1-b)^2$ であり、 $\frac{\pi}{2} - 1 > 0$ なので $\textcircled{3}$ の範囲は

$$\left\{ \frac{\pi}{4} (1-b)^2 - \left(\frac{\pi}{2} - 1 \right) \cdot \frac{1}{4} (1-b)^2 \right\} b \leq \textcircled{3} < \frac{\pi}{4} (1-b)^2 b$$

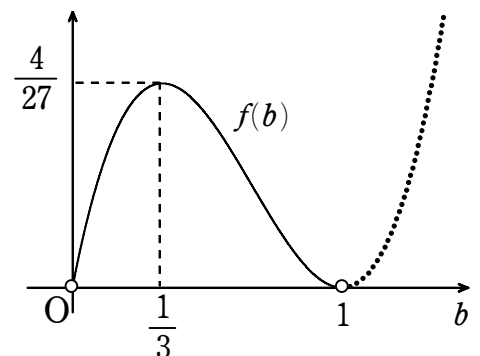
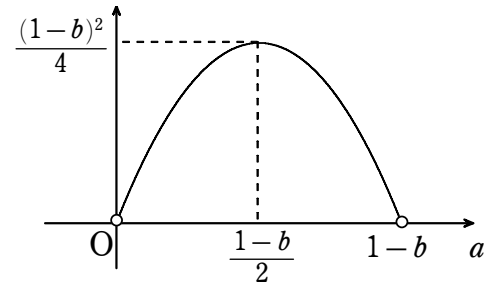
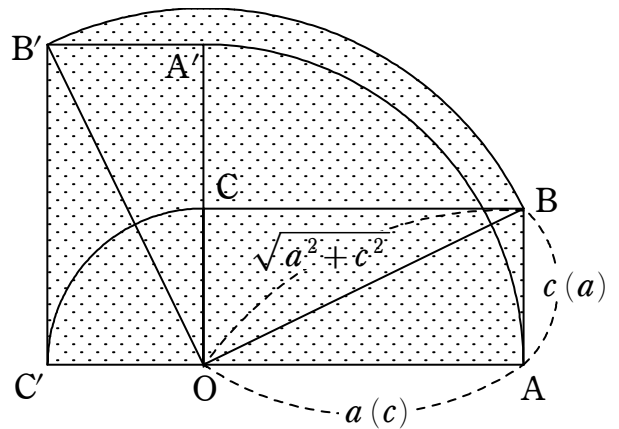
$$\text{したがって } \left(\frac{\pi}{8} + \frac{1}{4} \right) (1-b)^2 b \leq W < \frac{\pi}{4} (1-b)^2 b \quad \dots \textcircled{4}$$

次に b を変化させる。

$$f(b) = (1-b)^2 b = (b-1)^2 b \quad \text{とおくと}$$

$$f'(b) = 2(b-1)b + (b-1)^2$$

$$= (b-1)(3b-1)$$



②より $0 < f(b) \leq \frac{4}{27}$ となり,

④より W の範囲は $0 < W < \frac{\pi}{4} \cdot \frac{4}{27} \Leftrightarrow 0 < W < \frac{\pi}{27}$

[東京大学 2010 年前期 理科 2]



(1) すべての自然数 k に対して、次の不等式を示せ。 $\frac{1}{2(k+1)} < \int_0^1 \frac{1-x}{k+x} dx < \frac{1}{2k}$

(2) $m > n$ であるようなすべての自然数 m と n に対して、次の不等式を示せ。

$$\frac{m-n}{2(m+1)(n+1)} < \log \frac{m}{n} - \sum_{k=n+1}^m \frac{1}{k} < \frac{m-n}{2mn}$$



(1) $0 < x < 1$ のとき $k < k+x < k+1$ であるから

$$\int_0^1 \frac{1-x}{k+1} dx < \int_0^1 \frac{1-x}{k+x} dx < \int_0^1 \frac{1-x}{k} dx \quad \text{より} \quad \frac{1}{2(k+1)} < \int_0^1 \frac{1-x}{k+x} dx < \frac{1}{2k} \quad \cdots \textcircled{1} \text{ を得る。}$$

$$(2) \int_0^1 \frac{1-x}{k+x} dx = \int_0^1 \left(-1 + \frac{k+1}{k+x} \right) dx = [-x + (k+1) \log(k+x)]_0^1 = (k+1) \{ \log(k+1) - \log k \} - 1$$

$$\textcircled{1} \text{ より } \frac{1}{2(k+1)} < (k+1) \{ \log(k+1) - \log k \} - 1 < \frac{1}{2k}$$

$$\frac{1}{2(k+1)^2} < \log(k+1) - \log k - \frac{1}{k+1} < \frac{1}{2k(k+1)}$$

$$\sum_{k=n}^{m-1} \frac{1}{2(k+1)^2} < \sum_{k=n}^{m-1} \left\{ \log(k+1) - \log k - \frac{1}{k+1} \right\} < \sum_{k=n}^{m-1} \frac{1}{2k(k+1)}$$

$$\text{ここで、(中辺)} = \log m - \log n - \left(\frac{1}{n+1} + \frac{1}{n+2} + \cdots + \frac{1}{m} \right) = \log \frac{m}{n} - \sum_{k=n+1}^m \frac{1}{k}$$

$$\text{(右辺)} = \sum_{k=n}^{m-1} \frac{1}{2} \left(\frac{1}{k} - \frac{1}{k+1} \right) = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{n} - \frac{1}{m} \right) = \frac{m-n}{2mn}$$

$$\text{(左辺)} > \sum_{k=n}^{m-1} \frac{1}{2(k+1)(k+2)} = \sum_{k=n}^{m-1} \frac{1}{2} \left(\frac{1}{k+1} - \frac{1}{k+2} \right) = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{n+1} - \frac{1}{m+1} \right)$$

$$= \frac{m-n}{2(m+1)(n+1)}$$

であるから、題意は示された。

[東京大学 2010 年前期 理科 3]



2 つの箱 L と R, ボール 30 個, コイン投げで表と裏が等確率 $\frac{1}{2}$ で出るコイン 1 枚を用意する。

x を 0 以上 30 以下の整数とする。

L に x 個, R に $30-x$ 個のボールを入れ, 次の操作 (#) を繰り返す。

(#) 箱 L に入っているボールの個数を z とする。コインを投げ, 表が出れば箱 R から箱 L に,

裏が出れば箱 L から箱 R に, $K(z)$ 個のボールを移す。ただし,

$0 \leq z \leq 15$ のとき $K(z) = z$, $16 \leq z \leq 30$ のとき $K(z) = 30 - z$ とする。

m 回の操作の後, 箱 L のボールの個数が 30 個である確率を $P_m(x)$ とする。

たとえば $P_1(15) = P_2(15) = \frac{1}{2}$ となる。以下の問(1), (2), (3)に答えよ。

(1) $m \geq 2$ のとき, x に対してうまく y を選び, $P_m(x)$ を $P_{m-1}(y)$ で表せ。

(2) n を自然数とするととき, $P_{2n}(10)$ を求めよ。

(3) n を自然数とするととき, $P_{4n}(6)$ を求めよ。



(1) 操作 1 回でボールの個数は次の図のように変わる

(↗, ↘ それぞれ確率 $\frac{1}{2}$)。

L が m 回後に 30 個になるのは,

(i) $x \leq 15$ のとき

1 回目に表が出て $2x$ 個になり, 残り $m-1$ 回で 30 個になる場合だから

$$P_m(x) = \frac{1}{2} P_{m-1}(2x)$$

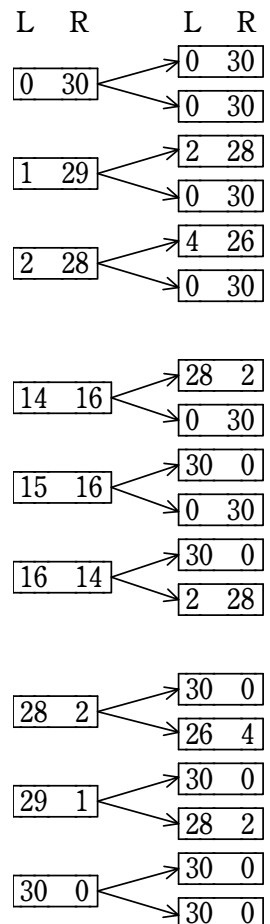
(ii) $x \geq 15$ のとき

1 回目に表が出て 30 個になるか,

1 回目に裏が出て $x - (30 - x) = 2x - 30$ 個になり,

残り $m-1$ 回で 30 個になる場合で,

$$P_m(x) = \frac{1}{2} + \frac{1}{2} P_{m-1}(2x - 30)$$



$$(2) P_{2n}(10) = \frac{1}{2} P_{2n-1}(20)$$

$$= \frac{1}{2} \left\{ \frac{1}{2} + \frac{1}{2} P_{2n-2}(10) \right\}$$

$$\text{よって } P_{2n}(10) = \frac{1}{4} P_{2n-2}(10) + \frac{1}{4} \cdots \textcircled{1}$$

$$\textcircled{1} \text{ は } P_{2n}(10) - \frac{1}{3} = \frac{1}{4} \left\{ P_{2n-2}(10) - \frac{1}{3} \right\} \text{ と変形でき, } P_0(10) = 0 \text{ より}$$

$$P_{2n}(10) = \frac{1}{3} + \left(\frac{1}{4} \right)^n \left\{ P_0(10) - \frac{1}{3} \right\}$$

$$= \frac{1}{3} \left(1 - \frac{1}{4^n} \right)$$

$$(3) P_{4n}(6) = \frac{1}{2} P_{4n-1}(12)$$

$$= \frac{1}{4} P_{4n-2}(24)$$

$$= \frac{1}{4} \left\{ \frac{1}{2} + \frac{1}{2} P_{4n-3}(18) \right\}$$

$$= \frac{1}{8} + \frac{1}{8} \left\{ \frac{1}{2} + \frac{1}{2} P_{4n-4}(6) \right\}$$

$$\text{よって } P_{4n}(6) = \frac{1}{16} P_{4n-4}(6) + \frac{3}{16} \cdots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{2} \text{ は } P_{4n}(6) - \frac{1}{5} = \frac{1}{16} \left\{ P_{4n-4}(6) - \frac{1}{5} \right\} \text{ と変形でき, } P_0(6) = 0 \text{ より}$$

$$P_{4n}(6) = \frac{1}{5} + \left(\frac{1}{16} \right)^n \left\{ P_0(6) - \frac{1}{5} \right\}$$

$$= \frac{1}{5} \left(1 - \frac{1}{16^n} \right)$$

[東京大学 2010 年前期 理科 4]



O を原点とする座標平面上の曲線 $C: y = \frac{1}{2}x + \sqrt{\frac{1}{4}x^2 + 2}$ と、その上の相異なる 2 点 $P_1(x_1, y_1)$,

$P_2(x_2, y_2)$ を考える。

(1) $P_i (i=1, 2)$ を通る x 軸に平行な直線と、直線 $y=x$ との交点を、それぞれ $H_i (i=1, 2)$ とする。

このとき、 $\triangle OP_1H_1$ と $\triangle OP_2H_2$ の面積は等しいことを示せ。

(2) $x_1 < x_2$ とする。このとき C の $x_1 \leq x \leq x_2$ の範囲にある部分と線分 P_1O, P_2O とで囲まれる図形の面積を y_1, y_2 を用いて表せ。



(1) $C: y = \frac{1}{2}x + \sqrt{\frac{1}{4}x^2 + 2} \dots \textcircled{1}$

$$\left| \frac{1}{2}x \right| < \sqrt{\frac{1}{4}x^2 + 2} \text{ より } \textcircled{1} > 0 \text{ である。}$$

$$\textcircled{1} - x = \sqrt{\frac{1}{4}x^2 + 2} - \frac{1}{2}x > 0$$

$$\triangle OP_iH_i = \frac{1}{2}(y_i - x_i)y_i \dots \textcircled{2}$$

$$= \frac{1}{2} \left(\sqrt{\frac{1}{4}x_i^2 + 2} - \frac{1}{2}x_i \right) \left(\frac{1}{2}x_i + \sqrt{\frac{1}{4}x_i^2 + 2} \right)$$

$$= 1$$

よって $\triangle OP_1H_1 = \triangle OP_2H_2 = 1$

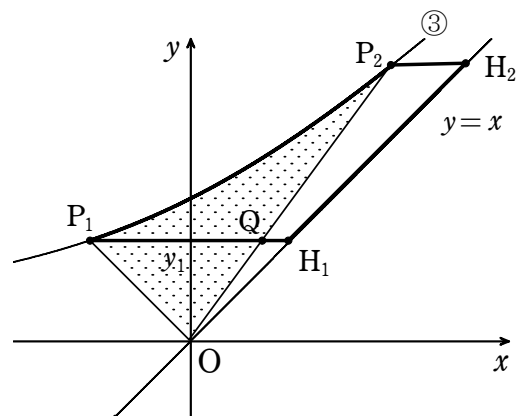
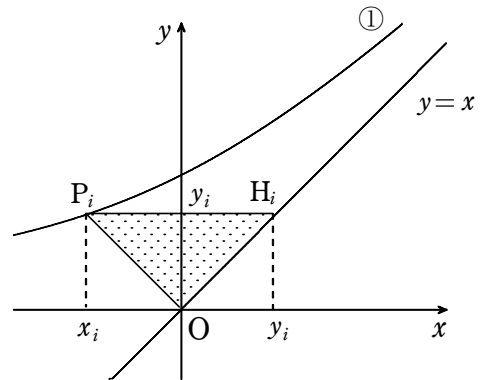
(2) $\textcircled{2} = 1$ であるから、 C 上の点について $\frac{1}{2}(y-x)y = 1$

$$\text{よって } x = y - \frac{2}{y} \dots \textcircled{3}$$

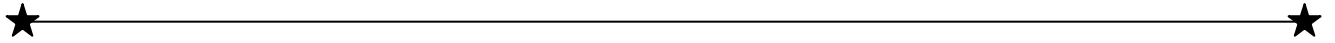
したがって図のようになり、(1)より $\triangle OQP_1 =$ 四角形 $P_2QH_1H_2$ であるから

求める面積は図の太線で囲まれた部分の面積に等しく

$$\int_{y_1}^{y_2} (y - \textcircled{3}) dy = \int_{y_1}^{y_2} \frac{2}{y} dy = 2 \log \frac{y_2}{y_1}$$



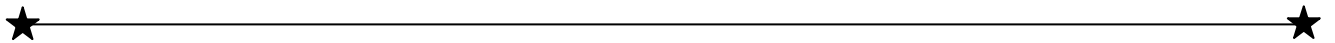
[東京大学 2010 年前期 理科 5]



C を半径 1 の円周とし、 A を C 上の 1 点とする。3 点 P, Q, R が A を時刻 $t=0$ に出発し、 C 上を各々一定の速さで、 P, Q は反時計回りに、 R は時計回りに、時刻 $t=2\pi$ まで動く。

P, Q, R の速さはそれぞれ $m, 1, 2$ であるとする。(したがって、 Q は C をちょうど一周する。)

ただし、 m は $1 \leq m \leq 10$ を満たす整数である。 $\triangle PQR$ が PR を斜辺とする直角二等辺三角形となるような速さ m と時刻 t の組をすべて求めよ。



時刻 t までの回転角は、 $P : mt$ 、 $Q : t$ 、 $R : -2t$ であるから

題意の直角二等辺三角形になるための条件は

$$mt - (-2t) = (2k+1)\pi \quad \cdots \textcircled{1}, \quad t - (-2t) = \left(n + \frac{1}{2}\right)\pi \quad \cdots \textcircled{2}$$

となる整数 k, n が存在することである。

$$\textcircled{2} \text{ より } t = \frac{2n+1}{6}\pi \quad \cdots \textcircled{3} \quad 0 \leq t \leq 2\pi \text{ より } 0 \leq n \leq 5$$

$$\textcircled{1} \text{ より } (m+2)t = (2k+1)\pi \text{ であるから、} \textcircled{3} \text{ を代入して } (m+2) \cdot \frac{2n+1}{6}\pi = (2k+1)\pi$$

$$\Leftrightarrow (m+2)(2n+1) = 6(2k+1) \quad \cdots \textcircled{4}$$

$2k+1$ は奇数であるから、 $\textcircled{4}$ の右辺は 4 の倍数でない偶数。

さらに $2n+1$ が奇数であることから、 $m+2$ は 4 の倍数でない偶数であり、

$$1 \leq m \leq 10 \text{ より } m = 4, 8$$

(i) $m=4$ のとき

$\textcircled{4}$ より $n=k$ となり、 n は $0 \leq n \leq 5$ の整数。

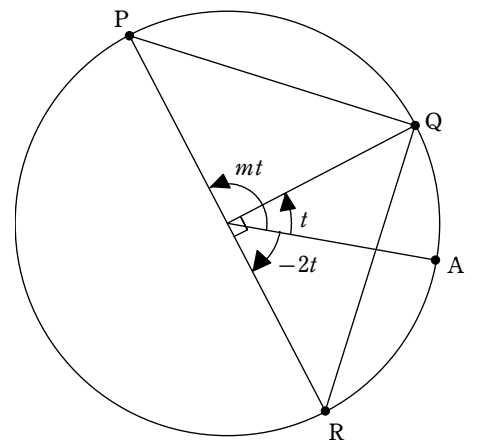
(ii) $m=8$ のとき

$\textcircled{4}$ より $5(2n+1) = 3(2k+1)$ となり、 $2n+1$ は 3 の倍数であるから $n=1, 4$

($n=1$ のとき $k=2$ 、 $n=4$ のとき $k=7$ で k は整数)

よって

$$(m, t) = \left(4, \frac{\pi}{6}\right), \left(4, \frac{\pi}{2}\right), \left(4, \frac{5}{6}\pi\right), \left(4, \frac{7}{6}\pi\right), \left(4, \frac{3}{2}\pi\right), \left(4, \frac{11}{6}\pi\right), \left(8, \frac{\pi}{2}\right), \left(8, \frac{3}{2}\pi\right)$$



[東京大学 2010 年前期 理科 6]



四面体 $OABC$ において、4 つの面はすべて合同であり、 $OA = 3$, $OB = \sqrt{7}$, $AB = 2$ であるとする。

また、3 点 O, A, B を含む平面を L とする。

- (1) 点 C から平面 L におろした垂線の足を H とおく。 \overline{OH} を \overline{OA} と \overline{OB} を用いて表せ。
- (2) $0 < t < 1$ をみたま実数 t に対して、線分 OA, OB 各々を $t:1-t$ に内分する点をそれぞれ P_t, Q_t とおく。2 点 P_t, Q_t を通り、平面 L に垂直な平面を M とするとき、平面 M による四面体 $OABC$ の切り口の面積 $S(t)$ を求めよ。
- (3) t が $0 < t < 1$ の範囲を動くとき、 $S(t)$ の最大値を求めよ。



- (1) $BC = 3, AC = \sqrt{7}, OC = 2$ となる。

$$\overline{OA} = \vec{a}, \overline{OB} = \vec{b}, \overline{OC} = \vec{c} \text{ とおくと } |\vec{a}| = 3, |\vec{b}| = \sqrt{7}, |\vec{c}| = 2$$

$$AB^2 = |\vec{a} - \vec{b}|^2 = 4 \text{ より } 9 - 2\vec{a} \cdot \vec{b} + 7 = 4 \Leftrightarrow \vec{a} \cdot \vec{b} = 6$$

$$BC^2 = |\vec{b} - \vec{c}|^2 = 9 \text{ より } 7 - 2\vec{b} \cdot \vec{c} + 4 = 9 \Leftrightarrow \vec{b} \cdot \vec{c} = 1$$

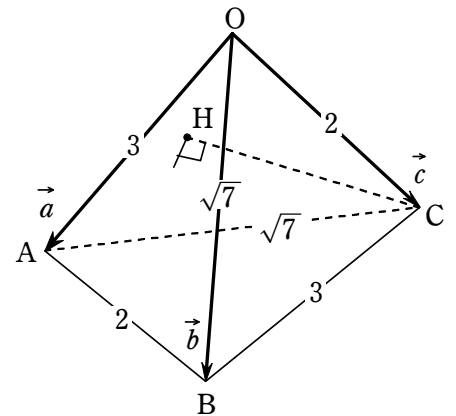
$$CA^2 = |\vec{a} - \vec{c}|^2 = 13 - 2\vec{a} \cdot \vec{c} = 7 \Leftrightarrow \vec{a} \cdot \vec{c} = 3$$

$$\overline{OH} = s\vec{a} + t\vec{b} \text{ とおくと } \overline{CH} \cdot \vec{a} = 0, \overline{CH} \cdot \vec{b} = 0 \text{ より}$$

$$(s\vec{a} + t\vec{b} - \vec{c}) \cdot \vec{a} = 0, (s\vec{a} + t\vec{b} - \vec{c}) \cdot \vec{b} = 0 \text{ から } 9s + 6t = 3, 6s + 7t = 1$$

よって $s = \frac{5}{9}, t = -\frac{1}{3}$ を得る。

$$\text{したがって } \overline{OH} = \frac{5}{9}\overline{OA} - \frac{1}{3}\overline{OB} \dots \textcircled{1}$$



(2) 直線 P_tQ_t 上の点 X は $\overrightarrow{OX} = \alpha\vec{a} + \beta\vec{b}$, $\alpha + \beta = t$ と表される。

①において $\frac{5}{9} - \frac{1}{3} = \frac{2}{9}$ であるから, $t = \frac{2}{9}$ のとき H は直線 P_tQ_t 上にあり,

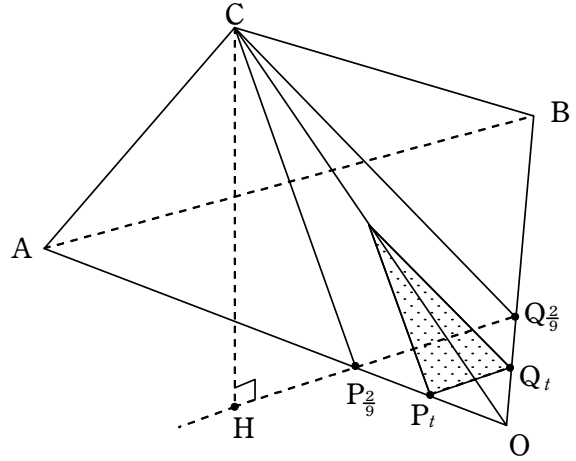
M は C と H を通る。

(i) $0 < t \leq \frac{2}{9}$ のとき

切り口は $\triangle CP_{\frac{2}{9}}Q_{\frac{2}{9}}$ と相似な三角形で,

相似比は $t : \frac{2}{9}$ であるから

$$S(t) = \left(\frac{t}{\frac{2}{9}} \right)^2 S\left(\frac{2}{9} \right)$$



(1) より $|\overrightarrow{CH}|^2 = \left| \frac{5}{9}\vec{a} - \frac{1}{3}\vec{b} - \vec{c} \right|^2 = \frac{5^2}{9^2} \cdot 9 + \frac{1}{3^2} \cdot 7 + 4 - 2 \cdot \frac{5}{9} \cdot \frac{1}{3} \cdot 6 + 2 \cdot \frac{1}{3} \cdot 1 - 2 \cdot \frac{5}{9} \cdot 3 = \frac{8}{3}$

よって $CH = \frac{2\sqrt{2}}{\sqrt{3}}$ で, $P_{\frac{2}{9}}Q_{\frac{2}{9}} = \frac{2}{9}AB = \frac{4}{9}$ であるから

$$S(t) = \left(\frac{t}{\frac{2}{9}} \right)^2 \times \frac{1}{2} \cdot \frac{4}{9} \cdot \frac{2\sqrt{2}}{\sqrt{3}} = 3\sqrt{6}t^2 \dots \textcircled{2}$$

(ii) $\frac{2}{9} \leq t < 1$ のとき

切り口は図の台形 $P_tQ_tR_tS_t$ で,

$$P_tQ_t = tAB = 2t$$

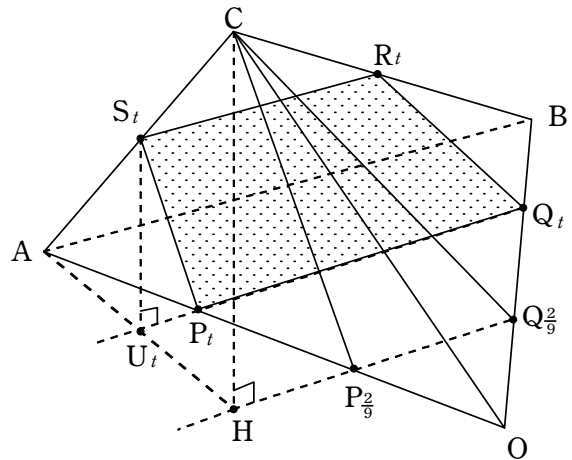
$$S_tR_t : AB = CS_t : CA$$

$$= P_{\frac{2}{9}}P_t : P_{\frac{2}{9}}A$$

$$= \left(t - \frac{2}{9} \right) : \frac{7}{9}$$

$$= (9t - 2) : 7 \text{ より}$$

$$S_tR_t = \frac{9t - 2}{7} \cdot 2 \text{ となる。}$$



高さを h とすると

$$h : CH = AU_t : AH = AP_t : AP_{\frac{2}{9}} = (1-t) : \frac{7}{9} \text{ であるから}$$

$$h = \frac{9}{7}(1-t)CH = \frac{9}{7}(1-t)CH \cdot \frac{2\sqrt{2}}{\sqrt{3}} = \frac{6\sqrt{6}}{7}(1-t)$$

$$\text{よって } S(t) = \frac{1}{2} \left(2t + \frac{9t-2}{7} \cdot 2 \right) \cdot \frac{6\sqrt{6}}{7}(1-t) = \frac{12\sqrt{6}}{49}(8t-1)(1-t) \dots \textcircled{3}$$

(3) ②は単調増加であるから③を考えればよく、

$$t = \frac{9}{16} \text{ のとき最大値 } \frac{12\sqrt{6}}{49} \cdot \frac{7}{2} \cdot \frac{7}{16} = \frac{3}{8}\sqrt{6}$$

